

## 第 33 回(令和 3 年度 第 1 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

## 開催概要

- 日 時 令和 3 年 5 月 18 日 (火) 14 : 00 ~
- 場 所 黒部市役所 201, 202 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

## 出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	籠浦 克幸	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	山田 晃	所長代理 高嶋 茂晴	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	青野 秀夫	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会監事	谷島 傳俊	欠席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	新村 恵子	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	欠席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	玉巻 史成	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	菅原 幸三	本人出席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	伊藤 健一	本人出席	
		富山県地方創生局総合交通政策室次長 地域交通・新幹線政策課長	有田 翔伍	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	座長
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事	川端 康夫	事務局長 坂井 英次	
Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長		浅野 慎一	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長		石橋 剛	本人出席		
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山本部長、小森課長、輿水班長、櫻田班長補佐、林主事、井田技師

## 会議次第

### 1 開 会

### 2 あいさつ (会長 大野黒部市長)

### 3 報告事項

- (1) 経過報告 . . . . . 資料 1
- (2) 令和 2 年度の市内公共交通利用者数について . . . . . 資料 2
- (3) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表について . . . . . 資料 3
- (4) 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況について . . . . . 資料 4
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策への支援について . . . . . 資料 5
- (6) 公募委員の募集について . . . . . 資料 6

### 4 議案

- 議案第 1 号 令和 2 年度収支決算について (監査報告) . . . . . 資料 7
- 議案第 2 号 令和 3 年度収支予算 (案) について . . . . . 資料 8
- 議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について . . . . . 資料 9
- 議案第 4 号 黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の一部改正について . . . 資料 10

### 5 その他

### 6 閉 会

## 開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
- 進行：小森課長

## あいさつ (大野市長)

- 会長よりあいさつを行った。

本日は、第 33 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位においては、ご多用の中ご出席いただき感謝している。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営にご理解・ご協力を賜り心から感謝を申し上げる。

さて、新型コロナウイルス感染が拡大してから約 1 年が経過したが、昨年度はこの時期の本協議会も書面開催となり、様々な分野で各種行事の延期や中止が相次いだほか、経済的にも甚大な影響を与えた。公共交通についても、感染拡大防止のための移動自粛により、著しく利用者数と運賃収入が減少し、コロナ禍による経済的影響を最も受けた業種の一つとなった。しかしながら、このような厳しい状況の中でも、去る 3 月 13 日には、感染拡大防止策を行った上で、「北陸新幹線開業 6 周年記念『ピカピカ作戦』」と「第 29 回黒部ワンコインフリー切符『楽駅停車の旅』2021 出発式」が黒部宇奈月温泉駅及び地鉄新黒部駅で開催し、ささやかではあるが、元の賑わいの回復に向けた明るい動きも少しずつみられている。本市

としては、各運行事業者様のご尽力、そして賑わい回復に向けた市民活動に対し、積極的に協力していこうと思う。

最後に、本日の会議内容については、報告事項が 6 件、議案事項が 4 件となっている。報告事項は、「経過報告」、「令和 2 年度の市内公共交通利用者数」、「市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表」「第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況」、「新型コロナウイルス感染症対策への支援」「公募委員の募集」について報告する。また、議案については、「令和 2 年度収支決算」、「令和 3 年度収支予算（案）」「黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正」「黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の一部改正」について、皆様の忌憚のないご意見を賜りたく思う。

## 報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 令和 2 年度の市内公共交通利用者数について
- (3) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表について
- (4) 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況について
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策への支援について
- (6) 公募委員の募集について

- 事務局より、資料 1～5 に基づき、経過報告及び「令和 2 年度の市内公共交通利用者数」「市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表」「第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況」「新型コロナウイルス感染症対策への支援」に関する報告を行った。

○川端座長

原田委員からの意見はあるか。

○事務局

本日、原田委員は欠席されているが、事前に資料を確認したうえで「コロナ渦の状況下で交通事業者の皆様には、市民の生活の維持のために、安全な公共サービスの提供を続けていることに対して感謝の意と敬意を表する。」とのメッセージをいただいている。

○浅野委員

資料 4 について 3 点ほど質問がある。1 つ目は、事業 18 「バス路線等の定期的な見直し」について、計画の工程では改善策の実施が令和 5 年度からとなっているが、令和 5 年度からでないと実施できない理由があるのか。2 つ目は、事業 25 「駅施設の修繕・改善とパーク＆ライド駐車場の整備」について、パーク＆ライドに関しては、あいの風とやま鉄道駅と富山地方鉄道駅との（需要の）差が大きいと考えられるが、どのような考えで進めていくつもりなのか教えていただきたい。3 つ目は、基本施策 13 「公共交通に関する調査・計画・評価検証」について、計画の工程では毎年評価検証を行うようだが、評価検証による課題の抽出とこれに対する改善を実施していく必要があると考えられる。しかし、今回の資料ではそのことがみえないため、お考えをお聞かせいただきたい。

## ○事務局

1つ目と3つ目の質問は関連する部分があるため、続けて説明をさせていただく。1つ目の質問の事業18「バス路線等の定期的な見直し」について、この計画は令和元年度に委員の皆様方の議論の末、策定していただいたものである。見直しに係る関係者との合意形成や運行事業者の人材等の手配、許認可の手続きに時間を要することから、令和元年度時点では令和5年度を目途に改善策の実施を行うこととしている。その一方で、昨年度のような豪雪時の運行体制の見直しやダイヤ設定、バス停の位置、ルート変更などについては、日々の運行や、現在実施している交通事業者との協議の中で、課題は見えてきている。ただし、これらの課題の解決策については、事業者間での合意形成を図ったうえで、運輸局や公安など関係機関との協議を行うといった過程はどうしても必要だと考えている。また、資料では令和5年度に改善策の実施を位置付けているが、状況が整えば計画にとらわれずに前倒しで実施していくことも考えられる。3つ目の質問の基本施策13「公共交通に関する調査・計画・評価検証」についても、前倒しで実施できる改善案があれば、交通事業者に認可申請をしていただき、できるだけ早く進めていくことになる。2つ目の質問のパーク&ライドについて、現在、生地駅周辺ではI-town構想が、黒部駅では連絡通路の整備が、段階は異なるものの事業化に向けた協議が進められている。その中で、あいの風とやま鉄道や北陸新幹線は富山地方鉄道と性格が異なり高速幹線鉄道という性格をもっているため、市外など遠方までの移動の利用が多く一定のパーク&ライドの需要を見込んでいく必要がある。このため、拠点駅である黒部駅等については、民間ベースでの駐車場整備も含め、そういった用途の駐車場が必要になると考えている。

## ○浅野委員

事業18と基本施策13については計画上の工程に縛られず実施していくのであれば、特に事業18は計画早期に着手すべき事業となっているため、早急に改善策の実施に向けた動きを進めていただきたく思う。

## ○石橋委員

2点ほど質問がある。1つ目は、資料2に関する報告では、コミュニティ交通の利用者の減少幅は鉄道や路線バスに比べ小さく新型コロナウイルスの影響を大きく受けていないと推察しているようである。一方で、村椿・大布施地区のデマンドタクシーの利用者数は大きく減少しているが、この原因を把握しているのか。また、田家地区と前沢地区のデマンドタクシー利用者数が逆転しているが、これについても原因を把握しているのか。2つ目は、資料4に事業21「地域バス・タクシー導入可能性の検討」が位置付けられているが、この事業の具体的なイメージについてお聞きしたい。

## ○事務局

1つ目のコミュニティ交通の質問については、利用者アンケートなどは行っていないが、丘陵地帯となっている地区では代替交通機関がないため、コミュニティ交通の需要が下がりにくいと考えられる。一方で、平野部の地区では他の路線バスや自家用車での移動も容易であるため、コロナ渦の影響を受けやすいと推察される。また、2つ目の事業21「地域バス・

タクシー導入可能性の検討」について、現在黒部市では地域バス・タクシーに類似する事業としてデマンドタクシーを路線バスが利用できない地域で運行しており、交通空白地域の発生を抑制している。一方で、路線バスが利用可能な区域内にもバス停までの移動が困難な住民が存在する可能性は高いと考えられるが、このような小さい範囲の移動は、現状の公共交通の枠組みではとらえきれない。このようなケースに対しては、入善町で黒部市のデマンドタクシーに比べさらに細かいデマンドタクシーを運行している事例もあるほか、福祉の分野から考えれば福祉車両による対応も可能である。このように各分野との連携と住み分けを図りながら、対応を行う必要があると考えている。このような点もあわせて、令和 4 年度に記載の「事例の研究と課題の整理」等を実施していくつもりである。

○川端座長

浅野委員の発言にもあった通り、コロナ渦によりこれまで通りに計画がしにくい状況になっているため、交通事業者としても計画にとらわれすぎず柔軟な対応をしていく必要があると考えている。それでは、次の報告事項について事務局より説明していただく。

- 事務局より、資料 6 に基づき、公募委員の募集について説明を行った。

○川端座長

意見が特にないのであれば、資料 6 の通りに募集を行う。

## 議案事項

議案第 1 号 令和 2 年度収支決算について

議案第 2 号 令和 3 年度収支予算(案)について

議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について

議案第 4 号 黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の一部改正について

- 事務局より、資料 7 に基づき「令和 2 年度収支決算」に関する説明を行った。

○浅野委員

最終的な収支の差額がすべて黒部市に戻る理由を教えてください。

○事務局

市で経理している部分と YKK の通勤等で絡んで精算する部分で分けて整理している。例えば、南北循環線と新幹線生地線は主に通勤等により多くの利用者がいるが、新幹線生地線については YKK の負担というスキームで動いているため、YKK の通勤ということで経理している。また、南北循環線については 4 系統あり、1 系統が通勤帯、2 系統が日中帯、3、4 系統が退勤帯と分けて経理している。そのうち 1、3、4 系統を YKK の負担として経理している。一方で 2 系統の日中帯については、市の負担として経理している。そのほかのコミュニティ交通については市の負担として経理している。このように、新幹線生地線及び、南北循環線の 1、3、4 系統は YKK の負担として、それ以外は市の負担として経理している。今年度は南北循環線の 1、3、4 系統がコロナ渦による打撃を受けており、通常であれば定期代

として YKK が各交通事業者に支払っていた金額分が赤字となるため、YKK にはその部分を負担していただいた。また、市では各交通事業者のさらなるコロナ渦による赤字を見越し、看板修正委託やホームページの運営などの費用を節減しており、その分の収支の差額を返還金としている。つまり、路線別に経理を行い、その中で市の負担している路線のさらなる赤字の補填のために費用の削減を行った分を、そのまま返還金としたということである。

○浅野委員

YKK の負担については認識している。ただ、市が委託費等を絞ったことによる収支の差額が市に返還される理屈について、詳しく説明していただきたい。

○事務局

運行補助金については赤字補填ということで、協議会の予算の中でいくつかの路線について赤字補填を行っていたが、年度の途中でコロナ渦による被害がどこまで回復するのか分からない時期が長く続いていたため、路線によっては赤字がその時点より膨らむ可能性があった。そのため、看板作成費などを絞ることにより赤字の補填に備えていたが、最終的に補填に回すことがなかったため、その分の収支の差額は返還することとした。

○浅野委員

さらなる赤字の補填のために黒部市が努力をしていたため、補填に回らなかった分は黒部市に返還していただきたい、という解釈でよいか。

○事務局

努力という点については、例えば看板についてはシールでの対応を行うなど、利用者に不便をかけないように経費を節減した。経費を節減した理由については、先ほども発言した通り、さらなる赤字の補填に備えていたからである。

○川端座長

この件については、再度、事務局から浅野委員に説明していただきたく思う。それでは、他に意見がなければ委員の皆様には議案第 1 号について承認をいただきたく思う。

●議案第 1 号について多数の委員の承認をいただいた。

○川端座長

多数の委員の承認を得られたため、議案第 1 号については議案通りで承認とする。続いて、議案第 2 号について事務局より説明していただく。

●事務局より、資料 8 に基づき「令和 3 年度収支予算(案)」に関する説明を行った。

○浅野委員

YKK の負担金については該当路線の乗車人数を予想し計算したと思うのだが、この路線に

ついて歳出が下がり予算が残った場合、残額は黒部市に返還されるのか教えていただきたい。

○事務局

市の経理と、YKK が負担している新幹線生地線及び、南北循環線の 1、3、4 系統の経理は別であるため、浅野委員の発言したケースであれば、残額は YKK へ返還される。ただ、YKK のグループ長と協議をしたところ、YKK の通勤体系がマイカー通勤から公共交通通勤に戻る可能性もあるため、実績に応じて四半期別で支払いをした方がよいと考えている。そのため、予算上は資料 8 のようになっているが、実際には 3 か月ごとに支払いをしていただくこととなる。

○浅野委員

我々としてもワクチンの普及により、公共交通の解除もしなければいけないと考えているため、そのタイミングを見てまた協議をしていただきたく思う。

○川端座長

原田委員から何か意見はあるか。

○事務局

原田委員からは「令和 2 年度の収支決算に関しては、感染防止対策の支援、新たな補助金の構築のうえ収支のバランスが取れている。令和 3 年度の予算については市の補助金や YKK の補助金の増額により、収支に収まるくらいの予算となっていることについて、関係者の皆様のご努力に感謝する。また、コロナ渦による変化が分からないという中で、新幹線利用は減っており、また市内企業の在宅勤務が加速した場合、公共交通の乗客は見込めなくなるため、移動が少ない状態が定着した場合は、それに応じたダイヤ改正による経費節減も考えた方がよいのではないか」とコロナ対応の助言をいただいている。

○川端座長

他に意見がないのであれば、議案第 2 号については委員の皆様から承認をいただきたく思う。

●議案第 2 号について多数の委員の承認をいただいた。

○川端座長

多数の委員の承認を得られたため、議案第 2 号については議案通りで承認とする。続いて、議案第 3 号、第 4 号について事務局より説明していただく。

●事務局より、資料 9、10 に基づき「黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正」及び「黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の一部改正」に関する説明を行った。

○川端座長

意見がないのであれば、議案第 3 号、第 4 号については委員の皆様から承認をいただきた

く思う。

- 議案第 3 号、第 4 号について全委員の承認をいただいた。

○川端座長

全委員の承認をいただいたため、議案第 3 号、第 4 号については議案の通りに進めていた  
だきたいと思う。議案事項については以上とする。

#### その他

- その他意見なし。

#### 閉会（事務局）

- 事務局よりあいさつを行った。

以上をもって第 33 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会します。皆様、本日はお疲れ  
さまでした。

以 上